

# 保健管理センター

## 1 構成員

	平成19年3月31日現在
教授	0人
助教授	0人
講師（うち病院籍）	1人（0人）
助手（うち病院籍）	0人（0人）
医員	0人
研修医	0人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	0人（0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	1人
その他（技術補佐員等）	2人
合 計	4人

## 2 教員の異動状況

永田勝太郎（講師）（平成3年2月1日～現職）

## 3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成18年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	7編（6編）
そのインパクトファクターの合計	0
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	3編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	7編（7編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	4編（4編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	9編（8編）
そのインパクトファクターの合計	0

### (1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

#### A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 永田勝太郎，広門靖正，岡野 寛，喜山克彦，大槻千佳，長谷川拓也，青山幸生，コエンザイムQ10による酸化ストレス・抗酸化力の研究，日本心体美学会学会誌，1：36-40，2006.
2. 永田勝太郎，青山幸生，岡野 寛，長谷川拓也，喜山克彦，大槻千佳，包 隆穂，心身医学教育から全人的医療教育への転換—市民の願うところ—，心身医学46(8): 719-726，2006.

3. 永田勝太郎, 全人的医療の視点から見たサルトジェネシス (健康創成論) と実存分析, 全人的医療7(1): 103-110, 2006.
4. 永田勝太郎, 長谷川拓也, 喜山克彦, 青山幸生, 岡野 寛, 広門靖正, 抑肝散による線維筋痛症の治療, 日本東洋心身医学研究21(1/2):46-51, 2006.
5. 永田勝太郎, 疾病における酸化ストレスと抗酸化力, 食品と開発42(1):4-6, 2007.

インパクトファクターの小計 [0.00]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

1. Singh AN, Nagata, K, Multidisciplinary management of chronic pain, Comprehensive Medicine, 7(1):62-70, 2006.
2. アマレンドラ・シン, 永田勝太郎, 慢性疼痛の多角的治療管理, 全人的医療7(1):71-78, 2006.

インパクトファクターの小計 [0.00]

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Nagata K, Hasegawa T, Okano K, Aoyama Y, Kiyama K, Hirokado Y, Ohtsuki C, Development and evaluation of balneo-Morita therapy for the treatment of fibromyalgia syndrome, Proceedings of the 18th World Congress on Psychosomatic Medicine: 97-100, 2006.7.26

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

1. Tanamura M, Nagata K, Psychophysiological assessment of a therapeutic concert, Proceedings of the 18<sup>th</sup> World Congress on Psychosomatic Medicine: 101-106, 2006.7.26
2. Hirokado Y, Nagata K, Aoyama Y, Kiyama K, Okano K, Hasegawa T, Prohomeostatic effects of acupuncture, Proceedings of the 18<sup>th</sup> World Congress on Psychosomatic Medicine: 107-110, 2006. 7. 26

(3) 総 説

A. 頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 永田勝太郎, (追悼) 村山良介教授を偲んで, 心身医学46(9):778-779, 2006.
2. 永田勝太郎, 慢性疼痛 (心因性疼痛) の病態および診断・治療, LISA 13(10):904-908, 2006.
3. 永田勝太郎, 血圧が低く, 心配です, なんでも健康相談, NHKきょうの健康11:133, 2006.
4. 永田勝太郎, チャングムと線維筋痛症, 医道の日本66(1):88, 医道の日本社, 2007.
5. 永田勝太郎, 池見西次郎先生の遺訓 - 治療の本質とは -, 自律訓練研究27(1):10-16, 2007.

インパクトファクターの小計 [0.00]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Stacey B Day, (訳) 永田勝太郎, 全人的な健康の展望, 全人的医療, 7 (1) : 54-61, 2006.
2. 北出利勝, 永田勝太郎, (巻頭言) 日本慢性疼痛学会の歩みと第36回大会, 東洋医学とペインクリニック36 (3.4) :63-64, 2007.

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 永田勝太郎, 体質・症状・病気で選ぶ漢方薬の手引き, 335, 小学館, 東京, 2006.
2. 永田勝太郎, <死にざま>の医学, 238, 日本放送出版協会, 東京, 2006.
3. 永田勝太郎, 永田勝太郎, 改訂新版 見えない病気「低血圧」その診断と治療, 228, 佐久書房, 東京, 2006.
4. 永田勝太郎, ストレス解消法と未病, 都島基夫, 福生吉裕編集, 次世代の医学・医療がわかる未病医学 臨床:208-212, 金芳堂, 京都, 2006.

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Hasegawa T, Nagata K, Okano K, Hirokado Y, Otsuki C, A case with metastatic lung cancer of Vater ampulla carcinoma, Comprehensive Medicine, 7 (1) :117-123, 2006.
2. 長谷川拓也, 永田勝太郎, 岡野 寛, 広門靖正, 大槻千佳, 十二指腸乳頭癌の肺転移の一例, 全人的医療7 (1) :124-128, 2006.
3. 永田勝太郎, 岡野 寛, 喜山克彦, 長谷川拓也, 広門靖正, 大槻千佳, 青山幸生, 不可解な愁訴を訴えた慢性疼痛, 慢性疲労の1例 (ME/CFS), 痛みと漢方16:62-65, 2006.
4. 永田勝太郎, 長谷川拓也, 喜山克彦, 青山幸生, 岡野 寛, 広門靖正, 抑肝散による線維筋痛症の治療, 日本東洋心身医学研究21 (1/2) :46-51, 2007.
5. 大場多美, 永田勝太郎, 岡野 寛, 喜山克彦, 長谷川拓也, 広門靖正, 包 隆穂, 大槻千佳, 神経性食思異常症と疑われた線維筋痛症の1例, 心身医学47 (3) :220, 2007.
6. 喜山克彦, 永田勝太郎, 岡野 寛, 包 隆穂, 広門靖正, 高齢者の器質的疾患に対する漢方治療, 心身医学47 (3) :220, 2007.
7. 広門靖正, 永田勝太郎, 岡野 寛, 喜山克彦, 大場多美, 大槻千佳, 包 隆穂, 長谷川拓也, 鍼の抗酸化力・酸化ストレスへの影響-女性心身症への適応-, 心身医学47 (3) :220-221, 2007.

インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. 岡野 寛, 永田勝太郎, 広門靖正, 喜山克彦, 大槻千佳, 大場多美, ATにより治療した薬剤過敏性のあるME/CFS (筋痛性脳症/慢性疲労症候群) の一例, 心身医学47 (3) :221, 2007.

インパクトファクターの小計 [0.00]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 青山幸生, 広門靖正, 吉田 綾, 大江容子, 永田勝太郎, サルトジェネシス (健康創成論) 的アプローチが有効であった慢性疼痛の2症例, ペインクリニック27(12):1593-1595, 2006.  
インパクトファクターの小計 [0.00]

#### 4 特許等の出願状況

	平成18年度
特許取得数 (出願中含む)	0件

#### 5 医学研究費取得状況

	平成18年度
(1) 文部科学省科学研究費	0件 (0万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 (0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	9件 (640万円)

#### 7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	1件	4件
(2) シンポジウム発表数	3件	8件
(3) 学会座長回数	2件	8件
(4) 学会開催回数	1件	4件
(5) 学会役員等回数	11件	27件
(6) 一般演題発表数	6件	

##### (1) 国際学会等開催・参加

###### 1) 国際学会・会議等の開催

1. Organizer, Nagata K, 2006 International Congress of Psychotherapy in Japan and The Third International Conference of the Asian Federation for Psychotherapy, Tokyo, Japan, 2006. 8. 30, 2000人

###### 2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演

1. (Keynote Lecture) Nagata K, Salutogenesis and Logotherapy from the View Points of Comprehensive Medicine, 2006 International Congress of Psychotherapy in Japan and The Third International Conference of the Asian Federation for Psychotherapy, Tokyo, Japan, 2006.8.30

3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

1. (Symposium) Aoyama Y, Nagata K, Existential Approach in Treatment of Pain-a Viewpoint of Chronic Pain-, 2006 International Congress of Psychotherapy in Japan and The Third International Conference of the Asian Federation for Psychotherapy, Tokyo, Japan, 2006. 8. 30
2. (Symposium) Machiko T, Nagata K, Hasegawa T, Psychophysiological Assessment of a Therapeutic Concert, 2006 International Congress of Psychotherapy in Japan and The Third International Conference of the Asian Federation for Psychotherapy, Tokyo, Japan, 2006. 8. 30
3. (Symposium) Nagata K, Chronic Pain Control and 17-KS-S,17-OHCS, The 12<sup>th</sup> Congress of the Asian College of Psychosomatic Medicine, Melbourne, Australia, 2006. 11. 25

4) 国際学会・会議等での座長

1. Nagata K, 2006 International Congress of Psychotherapy in Japan and The Third International Conference of the Asian Federation for Psychotherapy, Tokyo, Japan, 2006. 8. 30
2. Nagata K, The 12<sup>th</sup> Congress of the Asian College of Psychosomatic Medicine, Melbourne, Australia, 2006. 11. 25

5) 一般発表

口頭発表

1. Hasegawa T, Nagata K, Kiyama K, Myalgic Encephalopathy/Chronic Fatigue Syndrome after Whiplash Injury, The 12<sup>th</sup> Congress of the Asian College of Psychosomatic Medicine, Melbourne, Australia, 2006. 11. 25

ポスター発表

1. Hasegawa T, Nagata K, Amarendra N Singh, Louis T van Zyl, Paul R Davidson, The Effects of Antidepressants on Heart Rate Variability, 2006 International Congress of Psychotherapy in Japan and The Third International Conference of the Asian Federation for Psychotherapy, Tokyo, Japan, 2006. 8. 30
2. Machiko T, Nagata K, Psychophysiological Assessment of Music Therapy (Therapeutic Concerts), 2006 International Congress of Psychotherapy in Japan and The Third International Conference of the Asian Federation for Psychotherapy, Tokyo, Japan, 2006. 8. 30
3. Okano K, Nagata K, Hasegawa T, Hirokado Y, Kiyama K, Ohtsuki C, A case of Myalgic Encephalomyelopathy/ Chronic Fatigue Syndrome With Hypersensitivity to Medications Treated with Autogenic Training, 2006 International Congress of Psychotherapy in Japan and The Third International Conference of the Asian Federation for Psychotherapy, Tokyo, Japan, 2006. 8. 30
4. Kiyama K, Nagata K, Okano K, Hasegawa T, Hirokado Y, Ohtsuki C, Myalgic Encephal-

- opathy/ Chronic Fatigue Syndrome after whiplash injury, 2006 International Congress of Psychotherapy in Japan and The Third International Conference of the Asian Federation for Psychotherapy, Tokyo, Japan, 2006. 8. 30
5. Hirokado Y, Nagata K, Okano K, Hasegawa T, Kiyama K, Ohtsuki C, The effect of acupuncture on oxidative stress and anti-oxidant potential on the female with psychosomatic diseases, 2006 International Congress of Psychotherapy in Japan and The Third International Conference of the Asian Federation for Psychotherapy, Tokyo, Japan, 2006. 8. 30

## (2) 国内学会の開催・参加

### 1) 主催した学会名

1. 永田勝太郎, こころとからだの痛み研究会第16回集会, 東京, 2006. 7. 30
2. 永田勝太郎, 第12回日本実存療法学会, 東京, 2006. 8. 30
3. 永田勝太郎, 統合医療と実存分析 (生きる意味), 第3回統合医療ワークショップ, 東京, 2006. 9. 2
4. 永田勝太郎, こころとからだの痛み研究会第17回集会, 東京, 2007. 3. 31

### 2) 学会における特別講演・招待講演

1. 永田勝太郎, 加齢と痛み—高齢者の痛みをいかに理解し, コントロールするか, 日本ペインクリニック学会第40回大会・第28回日本疼痛学会合同開催, 神戸, 2006. 7. 15
2. 永田勝太郎, 全人的医療の視点から見たサルトジェネシス (健康創成論) と実存分析, 第12回日本実存療法学会, 東京, 2006. 8. 30
3. 永田勝太郎, 統合医療と実存分析の実践, 第3回統合医療ワークショップ, 東京, 2006. 9. 2
4. 永田勝太郎, 現代医療への提言 補剤の使い方, 第114回OTCカウンセラーの会研修会, 大阪, 2006. 11. 5

### 3) シンポジウム発表

1. 永田勝太郎, 癌と酸化ストレス, 第4回フリーラジカルセミナー, 東京, 2006. 7. 9
2. 永田勝太郎, 広門靖正, 長谷川拓也, 酸化ストレスと健康管理, 日本健康科学学会第22回学術大会, 仙台, 2006. 10. 27
3. 永田勝太郎, 酸化ストレス・抗酸化力の簡易測定, 日本健康科学学会第22回学術大会, 仙台, 2006. 10. 27
4. 広門靖正, 永田勝太郎, 青山幸生, 鍼の酸化ストレスに与える影響, 日本健康科学学会第22回学術大会, 仙台, 2006. 10. 27
5. 長谷川拓也, 永田勝太郎, 岡野 寛, 喜山克彦, 広門靖正, 大槻千佳, 温泉療法が生体の酸化ストレス・抗酸化力に及ぼす影響 (第1報), 日本健康科学学会第22回学術大会, 仙台, 2006. 10. 27
6. 永田勝太郎, 加藤眞三, 水島繁美, サルトジェネシス (健康創成論) と健康科学, 日本健康科学学会第22回学術大会, 仙台, 2006. 10. 27

7. 永田勝太郎, サルトジェネシスと全人的な健康, 日本健康科学学会第22回学術大会, 仙台, 2006. 10. 27
8. 永田勝太郎, 各大学における漢方医学教育の現状, 第2回漢方医学教育のためのワークショップ, 主催:日本東洋医学会学術教育委員会, 2007. 1. 27

#### 4) 座長をした学会名

1. (一般演題座長) 永田勝太郎, 慢性疼痛, 第47回日本心身医学会, 東京, 2006. 5. 31
2. (パネルディスカッション報告・司会) 永田勝太郎, 「いかにして質の高い支援活動を展開するか」, 全国大学保健管理協会東海・北陸地方部会研究集会, 浜松, 2006. 7. 21
3. (一般演題座長) 永田勝太郎, 慢性疼痛, 第19回日本疼痛漢方研究会, 東京, 2006. 7. 29
4. (シンポジウム座長) 永田勝太郎, 女性と漢方, 第13回浜松東洋医学研究会学術大会, 浜松, 2006. 9. 16
5. (シンポジウム座長) 永田勝太郎, 酸化ストレスと健康管理, 日本健康科学学会第22回学術大会, 仙台, 2006. 10. 27
6. (シンポジウム座長) 永田勝太郎, サルトジェネシス(健康創成論)と健康科学, 日本健康科学学会第22回学術大会, 仙台, 2006. 10. 27
7. (司会) 永田勝太郎, 市民公開講座[第1部]日常生活のなかで慢性腰痛, 頸腕痛を考える, 第36回日本慢性疼痛学会, 京都, 2007. 2. 25
8. (一般演題座長) 永田勝太郎, 心身医学, 第36回日本慢性疼痛学会, 京都, 2007. 2. 25

#### (3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

##### 【国際】

1. 永田勝太郎, WHO (世界保健機関) 精神薬理学・心身医学 教授
2. 永田勝太郎, Albert Schweitzer World Academy of Medicine 副総裁
3. 永田勝太郎, International Study Board of Comprehensive Medicine 代表
4. 永田勝太郎, 中国心理衛生協会 (Beijing) 名誉理事
5. 永田勝太郎, International Balint Documentation Center 名誉会員
6. 永田勝太郎, Institute of Viktor Frankl 理事, 編集委員
7. 永田勝太郎, Polish Academy of Medicine 名誉会員
8. 永田勝太郎, International Hippocratic Foundation of Kos 名誉会員
9. 永田勝太郎, International Institute of Universalistic Medicine 名誉顧問
10. 永田勝太郎, International Foundation for Biosocial Development and Human Health 理事
11. 永田勝太郎, Asian Congress of Psychosomatic Medicine

##### 【国内】

1. 永田勝太郎, 日本実存療法学会 理事長
2. 永田勝太郎, 日本統合医療ワークショップ 世話人代表
3. 永田勝太郎, こころとからだの痛みの研究会 世話人代表

4. 永田勝太郎, 日本行動医学会 理事
5. 永田勝太郎, 日本慢性疼痛学会 理事
6. 永田勝太郎, 日本疼痛漢方研究会 常任理事, 副編集長
7. 永田勝太郎, 日本心身医学協会 理事
8. 永田勝太郎, 日本心体美学会 理事
9. 永田勝太郎, 日本医療心理諸学会連合 (UPM) 理事
10. 永田勝太郎, 日本血行動態研究会 世話人代表
11. 永田勝太郎, 日本バリント式保健医療協会 事務局長
12. 永田勝太郎, 日本東洋療法試験財団 理事
13. 永田勝太郎, 日本尊厳死協会 理事
14. 永田勝太郎, 日本瘀血学会 理事 副会長
15. 永田勝太郎, 日本コエンザイムQ協会 理事
16. 永田勝太郎, 日本教育臨床研究会 顧問
17. 永田勝太郎, 日本心身医学会 評議員
18. 永田勝太郎, 日本自律神経学会 評議員
19. 永田勝太郎, 日本保健医療行動科学学会 評議員
20. 永田勝太郎, 日本プライマリ・ケア学会 評議員
21. 永田勝太郎, 日本レーザー治療学会 評議員
22. 永田勝太郎, 日本疼痛学会 評議員
23. 永田勝太郎, 日本歯科心身医学会 評議員
24. 永田勝太郎, 日本ストレス学会 評議員
25. 永田勝太郎, 日本医学教育学会 評議員
26. 永田勝太郎, 日本健康科学学会 評議員
27. 永田勝太郎, 日本心療内科学会 評議員

#### 専門医・指導医

- ①永田勝太郎, 日本心身医学会 研修指導医・認定医
- ②永田勝太郎, 日本東洋医学会 指導医・専門医
- ③永田勝太郎, 日本内科学会 認定内科医
- ④永田勝太郎, 日本温泉気候物理医学会 認定温泉医
- ⑤永田勝太郎, 日本プライマリ・ケア学会 指導医・認定医
- ⑥永田勝太郎, 麻酔科 標榜医
- ⑦永田勝太郎, 日本心療内科学会, 認定医

## 8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数 (レフリー数は除く)	1件	1件

(1) 国内の英文雑誌の編集

永田勝太郎, Comprehensive Medicine, 日本実存療法学会, 日本バリント式保健医療協会, 日本血行動態研究会), 編集主幹, 登録なし, IFなし

(2) 外国の学術雑誌の編集

永田勝太郎, Journal of Viktor Frankl Institute Editorial Board, 登録なし, IFなし。

## 9 共同研究の実施状況

	平成18年度
(1) 国際共同研究	8件
(2) 国内共同研究	6件
(3) 学内共同研究	0件

(1) 国際共同研究

1. Day, S. (WHO, ニューヨーク大学) 全人的医療モデルに関する国際的合意, 現代医学, 伝統的東洋医学, 心身医学の相互主体的鼎立に関する研究
2. Alexander Vesely (ウイーン大学) ログセラピー (実存分析) の臨床的応用に関する研究
3. Harald Mori (ウイーンログセラピー研究所) ログセラピー (実存分析) の全人的医療における応用
4. Hampf, G. (ヘルシンキ大学) 慢性疼痛患者への全人的アプローチの方法論の研究
5. Singh, A. (WHO) 心身医学と東洋医学の相互主体的両立, および精神薬理学に関する研究, WPSM (世界心身医学会) などWHOシンポジウムを共催, WHOのfellowとして (医師) 留学 (有給)。費用はWHOから。
6. Louis van Zyl (クイーン大学) 身体的疾患を有した患者の心理的反応の国際比較
7. Hiroshi Nakazawa (ボルティモア市, 米国医師鍼灸学会) 相補代替医療の現代医学における使い分け
8. Iorio E L (International Observatory of Oxidative Stress) 酸化ストレス防御系についての研究

(2) 国内共同研究

1. 志村則夫 (東京医科歯科大学歯学部) 全人的医療に関する研究, WPA (世界精神医学会) などWHOシンポジウムを共催
2. 店村真知子 (聖隷クリストファー大学) 音楽療法の精神生理学的研究, WPA (世界精神医学会) などWHOシンポジウムを共催
3. 古谷悦子 (北海道大学歯学部) 17-KS-S, 17-OHCSを用いたストレス状態の計測法の開発の研究
4. 本多和夫 (鳥取大学医学部) 起立性低血圧の血行動態学的研究, ならびにQOL に対する影響の研究
5. 青山幸生 (東邦大学医学部) 慢性疼痛患者への全人的アプローチの研究
6. 白島 庸 (東邦大学医学部) 鍼治療の科学的評価の研究

## 10 産学共同研究

	平成18年度
産学共同研究	1件

1. 永田勝太郎, (株)信田缶詰との共同研究, Undenatured Type 1 collagen の慢性腰痛, 骨粗鬆症, 抗コルチゾール作用に対する臨床効果

## 11 受賞

### (1) 国際的な授賞

Nagata K, Viktor-Frankl-Award, The City of Vienna

### (2) 外国からの授与

永田勝太郎, WHO (世界保健機関) 精神薬理学・心身医学 教授

### (3) 国内での受賞

永田勝太郎, 日本心体美学会優秀論文賞, 2006年7月25日

## 12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 全人的医療モデルに関する国際的合意, 現代医学, 伝統的東洋医学, 心身医学の相互主体的鼎立に関する研究-Antonovski Aによるsalutogenesis (健康創成論) の導入モデルの考案

全人的医療は今後の世界の医療に取り, 重要なテーマであるが, その具体的方法論は目下, 模索中である。我々はDay, S. の唱えた全人的医療モデルであるbio-psycho-social model に加え, 人間の実存性に根ざしたexistential な視点を導入し, bio-psycho-social-existential model を国際的に提唱してきた。また, その実践のためには現代医学 (慣行医学), 伝統的東洋医学, 心身医学の鼎立が必須である。その相互主体的鼎立のための具体的方法論, 評価法の検討を行っている。また, バリント・グループなどのワークショップを通じ, 医学教育にも貢献してきた。

我々は, 統合医療は全人的医療に向かう一つのプロセスであり, 全人的医療が目的なら, 統合医療はその方法であり, その基本モデルは心体美学のモデルにもなりうると主張してきた。さらに, 患者評価表 (PEG; patient evaluation grid) に, pathogenesis (病因追究論) による問題 (problems) と salutogenesisによる資源 (resources) を併記することで患者を包括的にとらえることができることを見出した。

2. 酸化ストレス防御系についての臨床的研究

FRAS 4 (Free Radical analytical System 4) を用いて, 生体の酸化ストレス防御系を酸化ストレス (d-ROM test) と抗酸化力 (BAP test) により, 評価してきた。日本人の標準値を求め, さらに, 修正BAP/d-ROM比 (修正比) により評価する新しい方法を開発した。

また, 本法を用いて, 各種疾患の特異性を検討した。本法は癌やメタボリック・シンドロームに特異的である。

### 3. 尿中17-KS-S, 17-OHCSを用いたストレス状態の計測法の開発の研究

各種疾患・病態における17-KS-S, 17-OHCSについて検討した。さらに緩和医療における補剤の使用, 実存分析的治療の効果について評価した。癌の自然退縮の条件, 実存的転換の条件について検討を行った。

### 4. 非侵襲的血行動態測定方法に関する研究

Schellong の起立試験に伴う血行動態反応を検討してきたが, この方法が各種疾患に特異的な反応を呈することから, 本法の臨床的活用の一般化が求められてきている。起立性低血圧, 起立性高血圧, 慢性疼痛などでその特異的な反応パターンが確認されてきている。

集積した約2万件のSchellongの起立試験に伴う血行動態反応の非侵襲的測定を整理している。また, 加圧脈波測定機器の開発も行っている。

日本人の血圧について, 疫学的研究も進めている。

### 5. 慢性疼痛に関する全人的医療の方法論の開発

著しくQOLを低下させる慢性疼痛に悩む患者は多く, 線維筋痛症 (Fibromyalgia syndrome; FMS) やME/CFS (myalgic encephalopathy / chronic fatigue syndrome), 反射性交換神経性萎縮症 (RSD) はよく医療裁判にもなる疾患である。一方, 慢性疼痛においては, 身体・心理・社会・実存的に多面的に患者を理解することが求められる。また, 血行動態不良症候群や17-KS-S, 酸化ストレス防御系なども関与する生体の包括的なhomeostasisの破綻がその基礎にある。その評価, ならびに治療への貢献は重要な医療上の問題である。国際疼痛学会, 日本慢性疼痛学会, 日本疼痛学会, こころと身体の痛みの研究会, 疼痛漢方研究会など通じて, その成果を発表してきた。

Salutogenesis (健康創成論) を慢性疼痛治療に導入し, 疼痛評価を行った。さらに心拍数変動による自律神経系の機能評価を行った。

### 6. 伝統的東洋医学の科学的評価

漢方方剤, 鍼灸などの方法は今日, アジアだけのものではなく, 国際的になった (相補代替医療)。その科学的評価が大きくなされつつある。我々は循環器学的方法や, 神経内分泌学的方法を用いて, 積極的に評価してきている。鍼の作用機序, 漢方方剤の生体への影響の評価などが徐々に解明されつつある。証の科学的評価の試みを行っている。

漢方方剤の抗酸化力の測定も行っている。

漢方教育についてのFaculty Development (FD) のための教育方法論の模索もしている。

### 7. 実存分析を基礎にした実存心身療法の開発の研究

心理療法は多々あるが, 人間の実存性に則ったlogotherapyは体験療法としてもっとも重要な意味を持つ。我々は神経性食欲不振や線維筋痛症, 緩和医療などの難治性の疾患を有する患者に本法を用い, 成果を挙げている。また, こうした心理療法の生物学的評価, つまり精神神経内分泌学的方法による評価が開発された。

実存分析を中心とした実存療法は単なる心理療法ではなく、脳のDHEA-Sの分泌を促進させる身体的・精神的な統合療法であることが明確になってきた。

#### 8. Serum CoQ10 levelの測定と血行動態への影響

coenzyme Q10は近年注目されてきた生体内活性物質である。その不足は心機能に影響を及ぼすが、まだ未知の部分も多い。HPLC法による測定、臨床症状との関連について検討している。酸化ストレス防御系との関連について、検討している。

#### 9. undenatured Type 1 collagen のホルモン産生作用の研究

海洋性undenatured Type 1 collagen 骨粗鬆症に有効であることは周知されているがそれに17-KS産生作用があることが示唆される症例に遭遇する。その臨床的研究を行っている。

#### 10. 音楽療法のハード、ソフト面における開発と評価

音楽療法のハード、ソフトの開発を患者の個別性を尊重しながら選択できるようにするため、行ってきた。また、その客観的評価を精神生理学的方法で行ってきた。成果は世界精神医学会、日本心身医学会などで発表してきた。

音楽療法がカタルシスになる症例では、疼痛治療に有効であることを発表してきた。

#### 11. 温泉森田療法（温泉ロゴセラピー）の開発

線維筋痛症やME/CFSのような難治性の疼痛性疾患の治療には難渋する。患者の生き様を変える治療が必要である。そのために温泉森田療法を開発した。その予後について、詳細に検討した。

#### 12. 緩和医療における統合医療・全人的医療の展開

癌や難治性疾患の末期における緩和医療の実践には、新しい方法論の展開が必要である。現代医学的パソジェネシスを基盤に置きながらも、伝統的東洋医学や相補代替医療、心身医学、実存分析などサルトジェネシス的方法論の展開が必須である。我々はWHO（世界保健機構）の推奨するアスコナ方式のバリエーショングループなど緩和医療チームのマネジメントについて方法を模索してきた。また、ケアの方法についてもサルトジェネシス的アプローチを試みてきている。また、癌の自然退縮についての研究も進んだ。

### 13 この期間中の特筆すべき業績、新技術の開発

1. 心理療法・音楽療法・実存分析の精神生理学的評価
2. コロトコフ音図（KSG）の評価
3. 加圧脈波機器の開発
4. Undenatured Type 1 collagen のホルモン産生作用
5. 臨床へのsalutogenesisの応用（PEG）、ロゴセラピー（実存分析）への展開
6. 温泉森田療法の開発・評価、長期予後の評価
7. 臨床的酸化ストレス・抗酸化力の測定技術、修正BAP/d-ROM比（修正比）による新しい新評価

#### 14 研究の独創性, 国際性, 継続性, 応用性

1. 全人的医療モデルは我々独自のモデルであるが, 国際的に容認されてきている。また, 伝統的東洋医学も全人的医療の文脈の中で, 心身医学的アプローチをinterface にしながらその効果を発揮できることは国際的に合意に至っている (相補代替医療の進展)。その評価方法として非侵襲的血行動態の測定法や, 17-KS-S, 17-OHCSの測定, 心拍数変動による自律神経評価などに加えて, 酸化ストレス防御系の評価は新しい医学の方法として国際的にクローズアップされてきている。また, 医学教育の面からもこうした全人的医療の方法論は重要で, WHOもスピリチュアル・ケアとして推奨してきている。方法論の評価法について開発してきた。
2. 全人的医療の実現にはpathogenesis (病因追及論) なモデルのみでは問題解決しない。Salutogenesis (健康創成論) なモデルの導入が必須である。そこに伝統的東洋医学が導入できる (統合医療)。また, 心身医学は心身一元論によりこのモデルに導入できる。新しいモデルはパラダイムシフトである。
3. 行動変容の方法として, 実存分析学を応用した温泉森田療法を開発した。その臨床評価を行ってきた。線維筋痛症 (Fibromyalgia syndrome; FMS) やME/CFS (myalgic encephalopathy / chronic fatigue syndrome) と言った難治性疼痛性疾患の治療に効果を挙げている。
4. 酸化ストレス・抗酸化力の測定により, 癌やメタボリック・シンドロームなどの生活習慣病を未病のうちに治癒せしめるシステムの開発を行っている。

#### 15 新聞, 雑誌等による報道

1. 永田勝太郎, (司会) 第36回日本慢性疼痛学会市民公開講座 (第1部) 「日常生活のなかで慢性腰痛, 頸腕痛を考える」, 京都新聞-市民版ワイド, 2007. 2. 10
2. 永田勝太郎, 漢方は全人的医療を支える確かな手段, 漢方医学30(3):134, 2006. 11. 10